地球のいのち、つないでいこう

生物多様性

Iki*TOMO

自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「イキトモ」

VOL. 17

SPRING 2019

コットン、化粧品、コーヒー、有機野菜…

オーガニックでいこう

（参照：有機農法推進法、JAS法）

最近「オーガニック」という
言葉をよく耳にしませんか？
身近なところに
オーガニックはたくさんあります。

オーガニックとは化学肥料や農薬を使用せず、遺伝子組換え技術も利用しないことを基本とし、環境への負荷をできる限り低減する方法を用いて生産された農・畜産物を表します。農薬や化学物質に頼らず自然の力で生産され、検査で認証された農産物、加工食品、飼料及び畜産物には「有機JASマーク」がつけられます。

オーガニック　を考えてみよう

オーガニック玄米

小原壮太郎さん
（一般社団法人the Organic代表理事）

「自分の体は食べるものできている」　そんな当たり前のことを気づかせてくれたのが“オーガニックな食べもの”でした。生まれてはじめてオーガニックな野菜と玄米を食べた翌日から10日間ほど顔中から透明な液体がドロドロと吹き出すという衝撃的な体験をしたのですが、その後、胃腸や肌の状態が大きく改善しました。ぜひみなさんも「#わたしになるごはん」について考えてみては？

おばらそうたろう　オーガニック&サスティナブルなライフスタイルを広めるべく、普及・啓発活動に取り組む。「全国有機農業推進協議会」理事。「MOTHER EARTH」事務局長。

オーガニックコットンのデニム

鎌田安里紗さん
（モデル／エシカルファッションプランナー）

食べ物と同じく、服は毎日選ぶもの。特別な日だけでなく、毎日付き合っていくもの。「これでいい」と選ぶことも多くなる。その中に「これがいい」と選んだものが少しずつ増えていくと、なんでもない日々が納得感に満ちたものになっていく。オーガニックは、そのためのひとつのヒント。着る自分だけでなく、自然環境や生産者さん、みんなが健全であれること。これがいい、という意思表示。

かまだありさ　フェアトレードの商品企画、生産工場視察ツアーなど、様々なプロジェクトを実施している。慶應義塾大学総合政策学部非常勤講師。

オーガニックオイル

岸紅子さん
（日本ホリスティックビューティ協会代表）

本物のオーガニックコスメは、まさに大自然の粋。豊富なミネラルやビタミン、抗酸化物質に満ちていて、肌にメリットがあるのはもちろん、その芳醇な香りで心までワクワクさせてくれます。しかも、川や海を汚さず地球にも優しいものばかり。思わず深呼吸をしたくなるような香りのオーガニックコスメで、肌と心が喜ぶ極上のスキンケアタイムを楽しみましょう。

きしべにこ　美容家としていち早くホリスティックビューティのメッセージを発信。NPOを設立し、女性の心と体のセルフケアを啓蒙している。

オーガニックコットンのタオル

中野明海さん
（ヘアメイクアップアーティスト）

タオルメーカーとのコラボレーション企画で「肌と髪にとことん優しいタオル」をプロデュースしました。職業柄、タオルにはこだわりがありました。理想は羽のように軽くて、優しい肌触りで吸水性のいいタオル。オーガニックコットンでも作っていただき、オーガニック好きの方達に向けても、作り手の心意気が伝わる素敵な商品が出来たと思っています。

なかのあけみ　本来持っている可愛らしさや魅力を最大限に引き出すメイクで多くの女優やアーティストを担当する。タオルのほかにも、化粧品やツールの開発も手がける。

有機栽培の日本茶

西形圭吾さん
（NAKAMURA TEA LIFE STORE店主）

静岡県藤枝市で約30年前から無農薬有機栽培している農園の日本茶を扱っています。先代が農薬散布中に体調を崩したことが、無農薬栽培を始めたきっかけでした。現在ではオーガニックというだけでなく、お茶自体の味にもファンが多く、人気になっています。よいお茶を追求していくとオーガニックに興味のある人だけでなく有機栽培にたどり着きました。

しのあゆみ　スタイリストを経て、フォトグラファーに。パリと東京を拠点に雑誌や広告を中心に活動。単行本に『金曜日のパリ』（小学館文庫、雨宮塔子著）などがある。

有機栽培の野菜

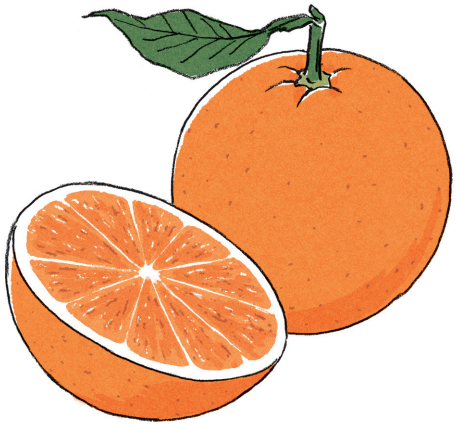
篠あゆみさん
（フォトグラファー）

オーガニックな野菜は何よりも味が濃くておいしい。オーガニック先進国フランスでは専門のスーパーマーケットやマルシェがあります。野菜を洗うためのブラシも売られていて、洗って皮ごと食べるのでゴミを減らせます。昔から買い物にはカゴやカートを持っていくのが当たり前。日常生活に自然とオーガニックやエコが共存しています。

にしかたけいご　静岡の農園「TEA NAKAMURA」代表とは小学校の同級生。デザイナーとしてパッケージデザインも手がける。2015年、東京・蔵前に直営店をオープン。

環境にいいもの、生きものにも優しいもの

環境に配慮した有機栽培では動物、昆虫、植物にもよい影響があります。
オーガニックを考えることで、自然環境の保全も考えてみませんか。



オレンジ

多様な昆虫たちが暮らす有機栽培のオレンジ農園

昆虫やクモなど小さな虫たちは、実は人にとっても大切な役割を果たしてくれています。例えばハチやハエの仲間は花から花へ花粉を運び、多くの植物の受粉・結実を助けます。トンボなど肉食昆虫は、害虫となる昆虫を捕らえてくれていますし、小さなトビムシやダニなども、枯葉などを分解して土を豊かにしてくれます。多種多様な虫たちがいてこそ、こういった役割が十分に発揮されるのです。昆虫が生息しやすい環境のひとつが有機農園です。インドネシア、東ジャワ州のオレンジ農園で比較すると、有機農園で捕獲された昆虫たちは半有機農園のものよりも多様でした。

有機栽培コーヒー

アリやチョウの種類が多く
バードフレンドリー®な農園も

コーヒーはコーヒーベルトと呼ばれる赤道付近の限られたエリアで栽培されています。近年では農薬等を使わない有機栽培の取り組みも増えてきました。コーヒーとカルダモンを育てているインドの農園では有機栽培の方がアリなどの地表徘徊性昆虫やチョウ類の種類が多く、種類ごとの数の偏りも少ないことがわかりました。また原生林に近い環境を守りながら森林の木陰を活かした農園でコーヒーを育てるバードフレンドリー®という取り組みもあります。渡り鳥が羽を休めているだけでなく、昆虫や両生類、植物などの多様性が保たれています。

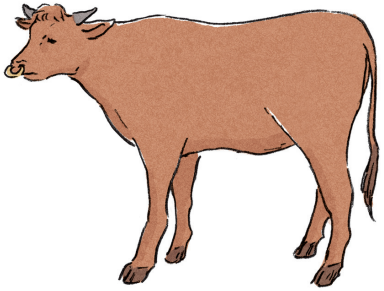
オーガニックコットンのTシャツ

二酸化炭素を40%低減、
使用する水資源も削減

コットン製品を生産する工程では一般的にたくさんの農薬や化学肥料、水資源を使用します。染色など製品化する際にも多くの化学染料や水資源を使っています。オーガニックコットンでは農薬などを使用しないので、私たちが商品を手にするまでに排出される二酸化炭素を40%、使用する水資源も削減している例があります。生きものに対する農薬による直接的な影響を防ぐだけでなく、大量の二酸化炭素排出によって引き起こされる気温の上昇や降水量の変化等の気候変動や、水資源の過剰利用等による、さまざまな生きものへの間接的な影響の低減にもつながるものと期待されています。

放牧牛

半自然草地への放牧で
在来植物の種類・数が増加

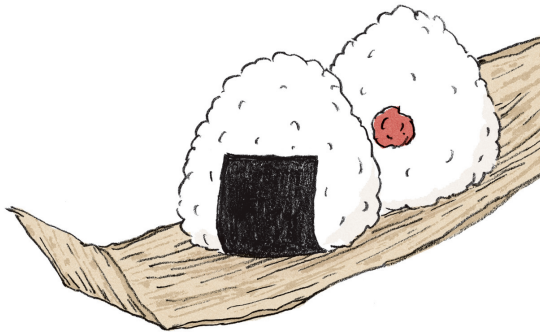


日本では放牧や火入れ(野焼き)などにより、自然度の高い草原が管理されてきました。草は牛や馬の飼料となり、その糞が堆肥となって田畑へ循環されていきます。近年では低木を除去し、夏には植物を繁茂させる火入れは行われなくなり、草原は失われつつあります。秋の七草のような草原性の植物が少なくなり、フジバカマやキキョウなど、絶滅の危険性が高まっている種もあります。管理が行き届かなくなった半自然草地へ肉牛の放牧を行ったところ、草原性の在来植物の種類、数が増えたという事例があります。放牧は従来の方法よりもエネルギー消費量を低減できる可能性もあります。

有機栽培米

日本の水田・水路は様々な
生きもののすみかになります

水田や水路、ため池、隣接する山林等が一体となった伝統的な水田地帯は、国内でも高い生物多様性を示す環境のひとつです。トンボをはじめとした水生昆虫、カエル、ドジョウのような淡水魚や水生植物など水辺の生き物たちのすみかになっています。有機農法の水田ではこのような生き物たちが多くみられます。除草剤の毒性が低いほど植物の種類が多く、殺虫剤を使用しなければ小さな水生昆虫が増え、これらを餌とするアカネ属のアキアカネやノシメトンボなどのトンボ、ダルマガエル類、ドジョウも増えるので、それらを餌にする水鳥もより多く見られるようになります。



SHIORI
（料理家）

代表作『作ってあげたい彼ごはん』をはじめ、著書累計400万部を超える。サステナブルかつオーガニックなファラフェルスタンド『Ballon』を経営。

INTERVIEW

ヴィーガンやオーガニックにふれて

Q ヴィーガン（完全菜食主義）のレストランを東京・中目黒で手がけていらっしゃいます。

A 100%ヴィーガンで、極力オーガニック食材を使うようにしています。料理修行のために訪れたパリで、野菜だけでできたファラフェルサンドに感動したことがきっかけでした。

Q マメから作られるコロッケのような中東料理ですね。

A それまで野菜料理は薄味で少し物足りないという印象でした。食べ盛りの若い男子が喜ぶような「彼ごはん」をテーマにしてきたので肉も魚も使い、しっかりした味付けのレシピを提案してきたのですが、野菜だけでもおいしくて、男子も満足できる料理があるんだと驚きました。

Q ファラフェルからオーガニックに興味を持たれたのですか？

A ファラフェルがヴィーガン料理で、研究していくと自然とヴィーガンカフェに行く機会が増えました。そこにはオーガニックが紐付いていたのです。

Q ファラフェルは日本ではあまり馴染みがない料理ですよね。

A 日本にあったらいいのにどうしてないんだろう、ないならやってみようと思いました。約10年前、彼ごはんのレシピ本を出版した頃は若い女の子が料理をしないと言われていた時代で、本がヒットしたことで料理する女子が増えたという経緯があります。きっとヴィーガンやオーガニックも文化として根付く時がくるのではないかと思いました。欧米では当たり前、老若男女にも浸透しています。

Q なぜ浸透しないのでしょう？

A 日本はだし文化なので、どんな料理にもかつお出汁を効かせることが多いからでしょうか。教育の問題もあるかもしれません。しかしいくら身体によくて、環境にいいと言われても、おいしくなければ続けられません。圧倒的においしいヴィーガン料理を作ろう、男子ウケする料理にしようと思いました。

Q ヴィーガンやオーガニックに触れて変わったことは？

A 価値観だと思います。食事する店や料理に使う食材の選択肢が広がりました。今までおいしいを追求してきましたが、食だけではなく暮らし全般の根本を正していけば、人も生きものも幸せな循環に立ち返ることができるのではないでしょうか。

環境に配慮した表示タグ

サイズや素材など、衣料につけられる製品表示のタグ。2018年より、Tシャツには遺伝子組み換えの種子や農薬を使用せず、製造における水資源の削減量など、環境に配慮された内容を合わせて記載。製品の内側にプリントされている。

COLUMN

コットンからスタートした〈パタゴニア〉の取り組み

アウトドアスポーツ向けの衣料品を扱う、アメリカ発のメーカー<パタゴニア>ではすべての綿製品にオーガニックコットンを100%使用する。

「私たちは、故郷である地球を救うためにビジネスを営む」という企業理念を掲げる〈パタゴニア〉。1988年にボストンで社員の健康被害の原因が綿原料に残っていた有害物質であったことが始まりであった。綿の栽培や製法を調査すると、アメリカの農地1%未満で栽培が行われているにも関わらず、全土の農薬使用量の10%を占めていた。実際にカリフォルニア州の農場で作業者がガスマスクをつけて農薬を散布している姿に衝撃を受けたという。土や水、空気を汚染し、数多くの生物に害を及ぼしているという調査結果から1996年に綿製品をすべてオーガニックコットン100%に切り替えた。現在では新たな製品製造にかかる環境への負担を軽減するために、積極的にリサイクルコットンやリサイクルナイロンを使用。また衣料品以外にも、環境再生型農業で栽培された穀物から作られるビールや海の水質改善に効果のあるムール貝など、持続可能で環境をさらによくする食料品を提供している。

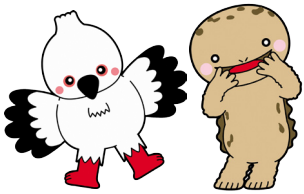
生物多様性のことを多くの人に知ってもらうために、2012年９月に旗揚げした様々な団体のキャラクターによる広報組織です。

生物多様性 キャラクター応援団

～全国のキャラクターからのおしらせ～

コウノトリのコーちゃん

（兵庫県豊岡市）



オオサンショウウオのオーちゃん

（兵庫県豊岡市）

市の鳥「コウノトリ」と市の両生類「オオサンショウウオ」がモチーフ。生きものがたくさん棲む田んぼや湿地、きれいな川が大好きです。豊岡市が取り組む「コウノトリも住める」環境づくりを知ってもらうため、日々活動しています。豊岡市へ会いに来てほしいな。

認定連携事業

生物多様性を守るために連携して取り組んでいる事業を認定し、広報活動を行っています。

『和歌山県みなべ町におけるアカウミガメの卵と子ガメを守る活動』

ライオン株式会社 大阪工場

本州最大のアカウミガメ産卵地・和歌山県みなべ町千里浜海岸では、2000年代後半に、野生動物による卵や子ガメの食害が深刻化しました。そこで2010年から日本ウミガメ協議会、現地の研究班と協働で保護・調査活動を開始。卵を孵化場へ移植せずその場で守ることを原則とし、防護柵の設置・改良などを進め、2016年には食害ゼロを達成。アカウミガメの保全に貢献しています。

「生物多様性の本箱」から

～みんなが生き物とつながる100冊～

生物多様性の理解や普及啓発のためにUNDB-J推薦「子供向け図書」を選定しています。

『土をつくる生きものたち』
・雑木林の絵本・

文＝谷本雄治
絵＝盛口満
出版社＝岩崎書店

雑木林の落ち葉や動物の死骸、糞などを土に変えていく生きものたちの働きを、精密なイラストとリズミカルな文章で、興味深く紹介しています。落ち葉を細かくするダンゴムシ、糞を土にかえすセンチコガネなど、土作りに一役かっている生きものが続々登場。足下に目がいく1冊です。

国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）
※UNDB＝United Nation Decade on Biodiversity

生物多様性を守るために、私たちにできる５つのアクション！ MY行動宣言
http://undb.jp/spread-action/entry/

編集・発行
国連生物多様性の10年日本委員会事務局（環境省自然環境局自然環境計画課生物多様性主流化室）
ホームページ URL：http://undb.jp/　メールアドレス：shizen-suishin@env.go.jp